

『じょうきてきな彼ら』

◇登場人物

- ・水島／警察1／行司
- ・富士の千代／警察2
- ・記者／風俗嬢

銀行強盗の犯行現場。

警察たち、どこかにいるはずの犯人を血眼になって探している。
拡声器を使い、がなり声で呼びかけている。

警察1 市民の皆様、お騒がせしております。わたくし、警察の人間でございます。そして、警察も人間でございます。人間はミスをしませぬ。そして、警察だつてミスをしませぬ。犯人を、逃がしちやつてもいいじやないか、人間だもの。ですので、同じ人間として、私たち警察人間の捜査にご協力をお願いします。え、皆様もご存知の通り、こちらの銀行にて、強盗事件が発生しました。犯人の特徴はまだ掴めていませんが、奴が現金を持って逃げたということだけは事実です。つまり、羽振りよくジャラジャラさせたやつを見つけたら、そいつは怪しい人間です。いいですか、ジャラジャラを見つけてください。見つけてくれた暁には、あなたもきつと、ジャラジャラになれますよ。

記者、いつのまにか出てきて、警察2に細かく話を聞いている。

記者 ねえ？ ジャラジャラだよ？ チャラチャラじゃないよね？

警察2 どっちでもよくね？

記者 よくない！

警察2 うーん、チャラチャラも、ちよつとあるかな？

記者 え？ チャラチャラもあるの？ チョイチャラ？

警察2 チョイチャラつて……

記者 じゃあ、ジャラジャラじゃないんだよね？

警察2 いや、ジャラジャラもあるよ。

記者 ちよつと待つてどうということ？ ジャラでチャラなの？

警察2 そうだね。ジャラチャラだな。

記者 どっちだよ。

警察2 どっちもだよ。

記者（舌打ち）使えねえな。お前ほんとに警察かよ。

警察2 お前な、新聞記者なら俺に聞いてばつかじやなくて、もつと足使つて情報集めるよ。

記者 何言つてんだよ。警察のくせに、そんな情報しか持つてないのかよ。仕事だろ？ ギャラもらつてんだろ？ ギャラギャラだろ！

警察2 なんだ、ギャラギャラつて！ お前だつて仕事だろ！

記者（急に金を取り出し、警察2に渡す）情報ください。

警察2（受け取つて）かしこまりました。

事件現場がいつのまにか大相撲の土俵上になる。

拡声器を持っていた警察1は、いつのまにか、大相撲の行司に変わっている。

行司 ひがし、まるしこーめー！ まるしこーめー！ にし、ふじのーちより、ふじのーちより！

舞台上に上がってきた富士の千代は、裸であるのに、大粒の真珠のネックレス（らしきもの）を首に飾っている。

逆側から上がってきたのは、まるこめではなく記者だった。

記者 富士の千代さん、いましお時間いいですか？

富士の千代 いやいや。いま取り組みの最中なので。インタビューなら後にして。

記者 なんてこと言ったって、土俵の上に、まるこめ関いらつしやらないでしょ？ よかったですね、不戦勝です。今場所のあなた、横綱になった途端負け越しですからね。逆にすごい精神力だ。さすが横綱。

富士の千代、記者の声を無視して取り組み前の儀式を行っている。

記者 ここ最近ね、銀行強盗事件が多発してまして。知ってます？

富士の千代 はい？

記者 だから、強盗事件のこと、なにか知ってます？

富士の千代 なんてわたしが？

記者 いや、警察が言うにはね、犯人は、ジャラジャラしてチャラチャラしたやつだっているんですよ。そしたらもう、富士の千代さんしか思いつかなくて。あ、その宝石、ご立派ですね。どちらで？

富士の千代 どこだっけいいでしょ？

記者 では、おいくらで？

富士の千代 うるさい。

記者 教えていただけませんね。もしかして、言えない、とか。

富士の千代 なんですか、あなた。

記者 わたくし、くるくる新報の者です。もしかしたら、スポーツ面以外であなことが記事になっちゃうのかな。

富士の千代 わたしを疑ってるんですか？

記者 疑われたことをしたんですか？

富士の千代 ちよつと待って。おかしいでしょ！ ジャラジャラしてるだけで疑われるんですか？

記者 はい。

富士の千代 え？

記者 どこで買ったの？

富士の千代 ……アマゾン。

記者 ……採掘されたんですか？

富士の千代 違いますよ！ わかるでしょ！

記者 そのネックレスね、ネットでは売ってないものらしいですよ？

富士の千代 え？ ……ああ、そうでした。お店で買ったんだ。そうだ。

記者 どこで？

富士の千代 え？ えつと、普通のお店。

記者（怪訝な顔で）へえ……。

富士の千代 違うや。もらい物です。

記者（さえぎるように）誰から？

富士の千代 いいでしょ、誰だって。

記者 ふ〜ん、貢ぎ物ですか。

富士の千代 言葉が悪い。

記者 ハーン……そうですか。ありがとうございました。

記者、封筒を取り出して富士の千代に差し出す。

富士の千代 いりませんよ。

記者 なぁに、ただの商品券ですよ。協力してくれた謝礼です。(囁くように) その宝石よりは安いですけどね……じゃ。

富士の千代、力士が懸賞金を受け取る所作で封筒を貰う。

記者、去っていく。

行司は着ていた上着を脱ぎ、富士の千代の頭にかける。すると無数のフラッシュが焚かれ、報道陣がその周りに集まってくる。

行司は警察1となり、富士の千代を警護・誘導する。

報道陣の輪の中に記者も加わり何か言葉を投げかけているが、警察1と富士の千代はついに行ってしまう。

残された記者のもとに、水島がやってくる。

水島 ……あの。

記者 ……はい？

水島 ありがとうございます。

記者 ……は？

水島 あなたが、捕まえてくれたんですよ、富士の千代さんを。

記者 あのね、僕は新聞記者ですよ？ 逮捕したのは警察。

水島 え、でも、見ましたよ、大相撲中継。

記者 もしかして、あのスクープで捕まったと？

水島 じゃないんですか？

記者 (呆れたように) いいですか？ あの情報は、はじめから警察も知ってますよ？ というより、警察から聞いたんですよ、富士の千代さんのことは。

水島 え？

記者 警察が犯人捕まえても、懸賞金って貰えないでしょ？

水島 何の話を？

記者 わかんないかな。なにか事件があったら、解決するのが警察の仕事でしょ？ だから、警察官が犯人を捕まえるのは、当然のことなわけ。だから頑張って犯人捕まえたところで、その警察官本人には1円のボーナスも入ってこないの。

水島 だから、わざと記者に情報流して……。

記者 そう。で、情報提供とか通報とかで我々がお国から頂戴した懸賞金の何割かを、マージンとして彼らに支払うわけ。要するに、癒着。

水島 そんな仕組みが……。

記者 まあ、一部の嫌なヤツらだけどね、それやってんのは。なかには、そのために犯罪者を雇ってるヤツもいるからね。

水島 はあ……いやもうなんか、ありがとうございます。

水島、急に振り返り、去っていくようにする。

記者 どこへ？

水島 警察です。自首します。

記者 は？ ちよつと待って。あんたが犯人なの？

水島 まあ……はい。

記者 え？ なんで？

水島 なにが？

記者 なんで強盗したの？

水島 べつに、大した理由はないんですけど。

記者 そうなの？ わけもなく強盗をしたの？

水島 まあ……お願いされたので。

記者 強盗を？

水島 はい。

記者 で、いいですよ、つて？

水島 はい。

記者 ……バカ？

水島 いや、先生はバカなんかじゃありません。

記者 お前のこと言ってるんだよ。誰だよ、先生って。

水島 あ……先生のことは、秘密です。

記者 なんかヤバそうだから聞かないけどさ……え？……もうしそうだとして、何のために自首するの？

水島 なんのために……もともとそういう計画なので。

記者 ……は？ 自首してどうすんのよ？

水島 ……爆発します。

記者 ……ごめん……俺今、すつげーコメントに困ってる。

水島 はい。

記者 でも、自首しても無駄だよ。どうせ話すら聞いてもらえない。

水島 なんて？

記者 もし誤認逮捕だとわかったら、あいつらは減給だ。

水島 えー？ じゃあどうしたら……。

記者 でも大丈夫だ。手がないわけじゃない……俺が、アンタを連れて行くんだよ、警察に。

水島 あなたに、そんな力があるんですか？

記者 バカだな。俺じゃなくて、懸賞金だよ。その金で減給分を補填する

つてことにしりや、あいつらも断る理由はない。

水島 そうか。ぜひ、お願いします。

記者 あんたに払う金はないけど……。

水島 結構です。

記者 そっか、わかった……あんた誰？

水島、ひどく狼狽する。

水島 な、な、な、なん、なんで、それを……

記者 なにお前、気持ち悪い。名前聞いてるだけだろ。

水島 ああ（落ち着いて）……つち、あ、間違えた。水島です。

記者 なんで自分の名前間違えてんだよ。富士の千代と何か関係あるの？

水島 まあなんか、いろいろあったみたいです。

水島 ……爆発します。

水島そそくさと去る。

記者 なんじゃそりゃ？

一人残される記者。

その場合は、刑務所の玄関前に変わっている。

刑務所から、たったいま釈放されたばかりの富士の千代が出てくる。なぜ自分が釈放されたか訳も分からず、挙動不審。

記者 おかえりなさい、富士の千代さん。

富士の千代 (怒気を含み) なんだ、なにをしたんだ！

記者 なんで釈放されたのに怒ってんですか。喜んでくださいよ。

富士の千代 何が目的だ！

記者 なんですか、人を悪者みたいに……どうでした？ 勾留生活。

富士の千代 どうなってるんだ？ 覚えのない罪で捕まって、かと思っただけ。勝手に釈放されて。誰かが俺をハメようとしてんのか？

記者 さあ……水島くんって、知ってます？

富士の千代 水島は、俺の付き人だけだ。

記者 付き人？

富士の千代 同じ相撲部屋の後輩。え？ 水島がなんか関わってるの？

記者 彼が強盗を働くような心当たりは？

富士の千代 あいつが犯人なの？

記者 らしいです。彼が自首したので、あなたは釈放されたんです。

富士の千代 まさか！ そんな気配なかったぞ！

記者 どうもね、計画的らしいんですよ、全部。あなたが逮捕されて釈放されることまで含めて。

富士の千代 は？ てことは、俺はあいつにハメられてたってことか？

記者 あなたを捕まえてくれてありがとう、とも言っていました。

富士の千代 本当か？ あいつがそんなことを？

記者 あなたのことを聞いてみても、どこか他人事のようなよそよそしい感じがあつて……。

富士の千代 そんな。誰よりも親しくしてたのに。

記者 ただ不思議なのは、せっかく嵌めたのに、なんでわざわざ自首したのかってことなんですよ。

富士の千代 待って。ショックがでかくて、頭が回らない。

記者 なんかないですか？ 最近、どこかおかしかったとか。

富士の千代 いやあ……あ！

記者、驚いて富士の千代から離れる。

富士の千代 なんてビビってんだよ。

記者 急に大きい声出すから……。

急に時間がさかのぼり、富士の千代が関脇だった頃になる。

水島が富士の千代の元にやってくる。

離れた場所からそれを見ている記者。

水島 呼びました？

富士の千代 腹減った。

水島 はい。

水島はおにぎりを取り出し、富士の千代に渡す。富士の千代は横柄に受け取りすぐに食べ始める。が、すぐに手を止め、

富士の千代 おかかかよ。

富士の千代、おにぎりを地面に放り投げる。

富士の千代 食べていいよ。

水島 はい……。

富士の千代 食えよ。

水島 はい。ありがとうございます。

水島、おにぎりを拾い、無表情で食べ始める。

富士の千代 うまいか？

水島 はい。

富士の千代 1000円でいいぞ。

水島 ……はい。

水島、財布から千円札を取り出し渡す。

富士の千代 税込1080円。

水島 ……はい（小銭がなく、仕方なく千円札を手渡す）。

富士の千代 お釣りは募金にまわします。（お金をポケットに）

水島 ……わかりました……ありがとうございます。

二人の話の間に記者が割り込んでくる。

水島の動きは止まっている。

記者（富士の千代に）お前ひどくね？

富士の千代 なに？ なんで入ってくんの？

記者 お前よくその品格で横綱審議委員会通ったな。くそだぞ、人間性。

富士の千代 このときまだ関脇だから。

記者 根本は変わらねえよ。

富士の千代 回想に入ってくるなよ。意味がわからなくなるだろ。向こうで見てろ。

富士の千代、記者を押すようにして遠ざけ、回想に戻る。

富士の千代 なんの話だっけ？

水島 え？

富士の千代 どこ行きたい？

水島 千代さんに任せます。

富士の千代 じゃあ……風俗。

水島 ……あの、巡業中ですよ？

富士の千代 いやなの？

水島 あ、いや、あの……。

富士の千代 いいよ、じゃあ。俺一人で行ってくるから。

水島 あ、いや、俺も行きます。

富士の千代 いいよ無理しなくて。

水島 いえ、大丈夫です。

富士の千代 ちがうだろ。

水島 ……はい？

富士の千代 行きたいんだろ？ お前も風俗に。ならそう言えよ。

水島 はい、すいません。

富士の千代 だから……。

水島 俺も連れて行ってください。

富士の千代 ……はい？

水島 (ボソボソと) 風俗行きたいです。

富士の千代 え？！

水島 風俗行きたいです！

富士の千代 うわ、変態じゃん。

水島 ……すいません。

記者入ってくる。

水島は止まる。

記者 お前序の口からやり直せ！ 腐れきってる！

富士の千代 だから入ってくるなって。

記者 なんだよ、なんでこんなやつが相撲強いんだよ。世の中不平等だよ。

富士の千代 相撲強いからこんなヤツになるんだよ。

記者 てめえで言うなよ。

富士の千代 私はまだいい方だよ。

記者 ふざけたことぬかしてんじゃねえぞ！

富士の千代 大丈夫。見れば分かるから。

記者 なにがだよ！

富士の千代 まあまあ。

記者、富士の千代になだめられながら元の位置へ。

富士の千代 (記者に) あ、そうだ。ちょっと手伝ってくれ。

記者 はい？

回想。場所は風俗店の店内に変わっている。

個室へと歩く富士の千代と水島。

水島 あ、大丈夫ですかね？

富士の千代 大丈夫だよ！ ちゃんと料金2人分払ったんだから。

水島 そうじゃなくて……巡業中にこんなところ……千代さん、関脇です

よ？ 完全に顔知られてるし。

富士の千代 心配するな。俺は今日は何もしない。

水島 え？

記者、風俗嬢となつて個室の前で出迎える。

風俗嬢 こんにちは。あれ、二人？

富士の千代 ごめんね、おねーさん。ちゃんと受付の人には許可ももらったんだけど。

風俗嬢 えー？ その前に私に許可取って欲しいんだけど……。

富士の千代 ほんとだよ。

風俗嬢 え？ つていうか、アレだよ？ フジノ・チヨ。

富士の千代 富士の千代ね！ べつにあれ、フジノが苗字じゃないからね。

風俗嬢 へえー、やばーい、有名人じゃん。

富士の千代 あかね、おねーさん。急に悪いんだけどさ。オナニーつて見れる？

風俗嬢 えー、ちよつと恥ずかしい。

富士の千代 (顔の前で手を合わせ) ね？ お願い！

風俗嬢 ん……まあいいよ。

富士の千代 ありがとう！

風俗嬢 仕事の一環だし。

風俗嬢、股を広げ、股間に手を当てる。

それに驚いた富士の千代、咄嗟に止める。

富士の千代 ちよつとちよつと！ なにしてんの？

風俗嬢 (驚いて) なに？ あんたがおナニー見せてつて言ったんでしょ？

富士の千代 ちがうよ。オナニー見れる？つて言ったんだよ。

風俗嬢 一緒じゃん。

富士の千代 だから違うんだよ。そうじゃなくて、おねーさんが、(水島を指し) こいつのオナニー見てられる？つて聞いたの。

風俗嬢 え？

間

水島 え？ ……いやいやいやいやいや！ なに言ってますか！

富士の千代 (風俗嬢に) どう？

風俗嬢 見てるだけでいいの？

富士の千代 見てるだけ。でも、ちゃんと見ててよ。

風俗嬢 わかった。それだけならいいよ。

水島 ……え？ 本当に？

富士の千代 早くしろよ。

風俗嬢 大丈夫。ちゃんと見てるから。

水島 ……はい。

水島、立ち上がり、ベルトを緩めズボンを下げる。

それをじつと見つめる二人。

記者 ストープ！

急に風俗嬢は記者に戻り、回想も終わる。

水島、その格好のまま立っている。

富士の千代 もうちよつと！

記者 バカなの？ ねえ、バカなの？

富士の千代 結構うまいじゃないか。

記者 うるせー！ なんだよ、なんでこんな回想シーンを見せたんだよ！

富士の千代 見ててわからなかったか？ あいつのこと。

記者 わかんねえよ！

富士の千代 やっぱり最後まで見ないとわからんよな。

富士の千代、先ほどまでの体勢になり回想に戻ろうとするが、それを記者が止める。

記者 ダメダメダメ！ 殴るぞ！

富士の千代 なんで？

記者 口で説明しろ。

富士の千代 仕方ないな……あいつは、あの後、最後までいったんだよ。

しかも、3回も。どういふことかわかるか？

記者、言葉が見つからずあたふたしている。

富士の千代 あいつは、変態なんだよ。本物の。

記者 ただ断りきれない性格なだけでは。

富士の千代 ちがう。それだと、2回目、3回目の射精を説明できない。

あいつが1度いったあと、私たちはもうそれで終わるつもりだった。

おふざけが過ぎたなと思っていた。すると、あいつは自らまたやり始めただよ。興奮して叫びながら。3回目なんて、涙を流してた。

記者 ……ドM。

富士の千代 俺は、あいつの中の何かを目覚まさせてしまったらしい。あの後からあいつは、隙あらば俺の前でズボンを下ろして……。

記者 そんな風には見えませんでしたけど。

富士の千代 俺は引いてしまった……だからなのか、今度は俺の恋人の前でそういう行為を……。

記者 よくそれを許しましたね。

富士の千代 ……怖かったんだよ。

記者 あの……強盗事件との関連について聞いたんですけど……。

富士の千代 いろいろと溜まってたんじゃないのかな、ストレスとか。それをこう、解放させたくて、とか……。

記者 あ！

富士の千代 なに？

記者 そういえば、水島くん。捕まったら爆発するとか言ってた！

富士の千代 なるほど。刑務所の中でそういう行為を……。

記者 他の受刑者の前で……。

富士の千代 でも、わからない……わざわざ刑務所に入る必要が？

記者 そういえば、お願いされたって言ってました。

富士の千代 は？ 裏に誰かがいるってことか？

記者 なんか、先生とか言っていましたけど……。

富士の千代 先生……。

富士の千代、携帯電話を取り出し、だれかに電話をかけようとして耳に当てる。

電話がプツツと切れる。
間

記者 どちらへ？

富士の千代 先生に。

記者 知ってるんですか？！

富士の千代 イっちゃったみたい。
記者 ……そうですか。

水島、いつのまにか後ろを、向いている。

間

通話が始まる。その相手は水島だった。

照明C・O

水島（半べそ） 千代さん、ごめんなさい。ごめんなさい。

富士の千代 水島？ え！ 水島？ どうしてお前が！ 刑務所にいるんじや……。

了

水島、話をしながら、片方の手は股間の辺りで忙しく動いている。

記者 そんな！ なんで？ もう、聞きたいことたくさん！

水島 千代さん、すみません。悪いとは思ってます。でも、我慢できなくて……！

富士の千代 おい！ 待て！ どこにいる！ なんでお前があいつと一緒なんだ！

水島 ごめんなさい！！ あ、ああ、ああ……

富士の千代 おい！ 待て！

水島 千代さん、俺、もう……あ、ああ、あああああああ！